

セイフティフィラー & セイフティフィラー耐溶剤型

安全性に優れ、様々な壁面下地に対応。一液微弾性中塗材

『セイフティフィラー』・『セイフティフィラー耐溶剤型』は、シーラー、フィラー、パターンが一体化した微弾性フィラーとして、環境に優しいオール水系化が可能な、各種下地に対する優れた密着性、大幅な工期短縮、低汚染性、耐久性、防水性を有した、透湿・多機能型壁面改装システム塗材です。工法バリエーションが多く、改装目的に合った、最適な工法を選定することができます。また、『セイフティフィラー耐溶剤型』は、水性トップコートから溶剤型トップコートまで、それぞれの要求に応じた上塗りの選択が可能です。

●特長

1. 工期短縮になります。

シーラー、フィラー、中塗材を1つにしてある為、下地調整から中塗りまで使用でき、大幅な工期短縮になります。

2. ヘアークラックに追従できます。

微弾性のある中塗材で、下地のヘアークラック、巣穴等をうめ、既存塗膜の模様を変えることができます。

3. 各種下地に対し、優れた密着性を有しています。

様々な旧塗膜に対し、優れた密着性を持っていますので、塗り替えに最適です。

4. オール水系システムも可能です。

下地調整からトップコート仕上げまでオール水系化が可能なため、安全性に優れています。

5. 溶剤型トップコートを使用できます。

下塗りにセイフティフィラー耐溶剤型を使用することにより、上塗りに溶剤型トップコートを使用することができます。

●用途

1. 旧塗膜面

吹付タイル、リシン、弾性塗材、単層弾性等 内外壁下地

2. 素地面

- ① コンクリート、モルタル、PCa、スレート板等、内外壁下地（カチオン浸透エポプライマー又は、フロンエコブラ速乾）
- ② ALC板（セイフティフィラーを水道水で10～15%希釈し、ウールローラーで塗布してください。）

●容量・荷姿・希釈割合

品名	容量・荷姿	塗装方法	水希釈率(%)
セイフティフィラー	15kg石油缶	ウールローラー	3～7
		多孔質ローラー	1～3
		エアレス(ブランチャー式)	3～7
		リシンガン	3～7
		タイルガン	0～1
セイフティフィラー耐溶剤型	16kg石油缶	ウールローラー	3～5
		多孔質ローラー	0
		エアレス(ブランチャー式)	3～7
		リシンガン	3～7

●主材・上塗材シリーズ

品名	容量・荷姿
フロンプロテクトコート(艶有・半艶)(水性)	15・4kg
シリコントップII(艶有・半艶)(水性)	15・4kg
遮熱シリコントップII(艶有)(水性)	15・4kg
弾性トップ14(艶有)※	15・5kgセット
スーパートップ遮熱(艶有)※	15・6kgセット

※印の製品は、溶剤型トップコートのため、下塗りには、セイフティフィラー耐溶剤型をご使用ください。
(斑状仕上、カット状仕上、弾性塗材にて仕上げる工法で溶剤型トップコートを使用する場合は、セイフティフィラーもご使用になれます。)

《希釈率一覧表》

※スーパートップ遮熱は下記の希釈割合でご使用ください。

色調	希釈率
常備色	0～10%
白・淡彩色	0～10%
中彩色	0～5%
濃彩色	0～5%

(23℃ ローラー施工時)

●改修工法

工法名	セイフティフィラー	セイフティフィラー耐溶剤型
1. 旧塗膜のパターンを活かす工法	○	○
2. 新しくパターン付けをする工法		
スチップル状仕上	○	○
斑状仕上	○	×
カット状仕上	○	×
3. 弾性塗材にて仕上げる工法	○	○

○:工法設定あり ×:工法設定なし

●標準施工仕様

1.旧塗膜のパターンを活かす工法 注1)溶剤型トップコートで仕上げる場合の下塗りには、セイフティファイラー耐溶剤型をご使用ください。

工程	材 料 名	使用量(kg/m ² /回)	希釈率(%)	塗 装 方 法	塗回数	上塗可能時間(23℃)
素地調整	旧塗膜のふくれ、浮き、劣化部、汚れ等は、サンダー等にて除去し、十分乾燥する。					
下 塗 り	セイフティファイラー/セイフティファイラー耐溶剤型	0.3~0.7*	3~7/3~5	ウールローラー、リシンガン、エアレス(プランジャー式)等	1	4時間以上
上 塗 り	上塗材は全て共通ですので、下記の上塗りよりお選びください。					

*セイフティファイラー耐溶剤型を標準使用量より少なく塗布すると、ちぢれ等を生じる恐れがありますので、標準使用量を厳守してください。

2.新しくパターン付けをする工法

〈スチッブル状仕上〉

素地調整	旧塗膜のふくれ、浮き、劣化部、汚れ等は、サンダー等にて除去し、十分乾燥する。					
下 塗 り	セイフティファイラー/セイフティファイラー耐溶剤型	0.8~1.5*	1~3/0	多孔質ローラー	1	4時間以上
上 塗 り	上塗材は全て共通ですので、下記の上塗りよりお選びください。					

*セイフティファイラー耐溶剤型を標準使用量より少なく塗布すると、ちぢれ等を生じる恐れがありますので、標準使用量を厳守してください。

〈斑状仕上〉

素地調整	旧塗膜のふくれ、浮き、劣化部、汚れ等は、サンダー等にて除去し、十分乾燥する。						
主材塗り	基層塗り	セイフティファイラー	0.8~1.5	3~7	リシンガン、エアレス(プランジャー式)等	1	4時間以上
	模様塗り	セイフティファイラー *	0.6~1.0	0~3	リシンガン、タイルガン等	1	24時間以上
上 塗 り	上塗材は全て共通ですので、下記の上塗りよりお選びください。						

*カット状仕上の場合は、模様塗り0~30分後にヘッドカット用ローラーに塗料用シンナーをつけながら押さえてください。

上塗り 1~2の工法の上塗材は下記よりお選びください。

工程	材 料 名	使用量(kg/m ² /回)	希釈率(%)	塗 装 方 法	塗回数	上塗可能時間(23℃)
上塗り	フロンプロテクトコート(艶有・半艶)	0.15	0~5 10~20	ローラー、ハケ エアレス等	2	1時間以上
	シリコントップII(艶有・半艶) 遮熱シリコントップII	0.15	0~10 10~20	ローラー、ハケ エアレス等	2	1時間以上
	弾性トップ14 *	0.13~0.15	50~60	ローラー、ハケ、エアレス等	2	4~48時間
	スーパートップ遮熱 *	0.15	希釈率一覽表参照	ローラー、ハケ、エアレス等	2	4~48時間

*印の製品は、溶剤型トップコートの為、旧塗膜のパターンを活かす工法の下塗りには、必ずセイフティファイラー耐溶剤型をご使用ください。

*上記の各数値は、すべて標準値です。下地の状態、形状、施工条件、気象条件などにより多少の幅を生じることがあります。

●施工上の注意事項

1.素地調整について

- ①コンクリート、モルタル面は、pH9.5、含水率8%以下になるように20日以上養生し、十分乾燥してください。
- ②旧塗膜の付着不良部、脆弱、風化箇所、表面の油、ゴミ、ホコリ、コケ、エフロレッセンス等は、高圧水洗(14.7~19.6MPa)、サンダー、ワイヤーブラシ等にて取り除いてください。
- ③多孔質下地等の粗面、その他巣穴等下地に問題がある場合は、必ずポリマーセメントモルタルで処理してください。
- ④下地モルタルの浮き部は、エポキシ樹脂を注入し、ピンニングしてください。標準としてピンニングは、約25穴/m²です。
- ⑤幅0.3mm以上のクラック部はUカットし、フロンシーリングを充填してください。
- ⑥幅0.3mm以下のクラック、素穴、段差は、セイフティファイラーを充填してください。
- ⑦窓まわり、目地部の既存シーリングは撤去し、フロンシーリングにて打ち直し、施工してください。
- ⑧爆裂して内部の鉄部が露出している箇所はケレンし、防錆処理後、ポリマーセメントモルタルにて表面を処理してください。
- ⑨サッシまわりの欠損部は、ポリマーセメントモルタルで表面を平滑にしてから、フロンシーリングにて処理してください。
- ⑩シーリング材の上に本材を塗布する場合、使用するシーリング材は、1液ウレタンノンブリードタイプ(フロンシーリング)、2液ウレタン系が良好です。

■警告表示

- 1.容器からこぼれた場合には、砂などを散布した後処理してください。
- 2.取扱い後は、手洗いおよびうがいを十分に行ってください。
- 3.目に入った場合には、多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 4.誤って飲みこんだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 5.よくフタをし、一定の場所を定めて貯蔵してください。
- 6.子供の手の届かないところに保管してください。
- 7.破棄する時は、産業廃棄物として処理してください。

2.その他

- ①下地の状態により、シーラーが必要な場合がありますので、予めご相談ください。新設の場合、必ずカチオン浸透エポプライマー又は、フロンエコプラ速乾を塗布してください。
- ②弾性系スタッコ面の使用は、塗膜ふくれの原因となりますので避けてください。
- ③溶剤型トップコートをご使用になる場合は、セイフティファイラー耐溶剤型を使用してください。また、ちぢれ等を防ぐ為にも使用量は厳守してください。
- ④旧塗膜が溶剤型フッ素、シリコン系塗膜の場合、本体を施工しないでください。旧塗膜が溶剤型ウレタン系塗膜の場合、エクセルプライマーIIをご使用ください。
- ⑤強風(風速5m/秒以上)の場合は、飛散及び模様を支障をきたしますので、施工を避けてください。
- ⑥降雨、降雪下、気温5℃以下、湿度85%以上の場合は、ワレ、ハガレ、流れの原因になりますので、施工を避けてください。
- ⑦塗装時及び塗料の取扱い時は、換気を十分に行なって作業してください。
- ⑧施工は目地などの見切りまで連続して行ってください。
- ⑨材料の有効期限は、製造後6ヶ月です。
- ⑩動植物に影響を及ぼす可能性がありますので、施工時及び施工後の換気を十分に行なってください。

△ご注意

取り扱い上の注意については、容器に表示された注意事項をご参照ください。詳細内容が必要な場合には、安全データシート(SDS)をご参照ください。
*SDSは弊社HPにて閲覧・ダウンロードしていただけます。トップページから製品情報のページにアクセスし、各種SDS一覽をご参照下さい。

●お問い合わせは.....

東日本塗料株式会社



本 社 / 〒124-0006 東京都葛飾区堀切3-25-18 TEL.03(3693)0851(代) FAX.03(3697)2306
 埼玉工場 / 〒347-0017 埼玉県加須市南篠崎1-13 TEL.0480(65)1515(代) FAX.0480(65)1518
 仙台営業所 / 〒983-0045 仙台市宮城野区宮城野1-4-20 TEL.022(291)7372(代) FAX.022(291)7320
 新潟営業所 / 〒950-0871 新潟市東区山木戸3-7-9 TEL.025(273)5749(代) FAX.025(274)6730
 静岡営業所 / 〒422-8037 静岡市駿河区下島 128-1 TEL.054(238)8061(代) FAX.054(238)8063



*製品改良のため、予告なく仕様、性能、カタログ内容を変更する場合があります。
*諸官公庁等の特記仕様がある場合には、それを最優先して下さい。

URL <https://www.hnt-net.co.jp>

CATALOG NO.3 '22.09.1000